

小樽市立菁園中学校  
令和5年度 教育目標・重点項目

4つの力×16のSkill関連データ  
(令和5年度後期)

---

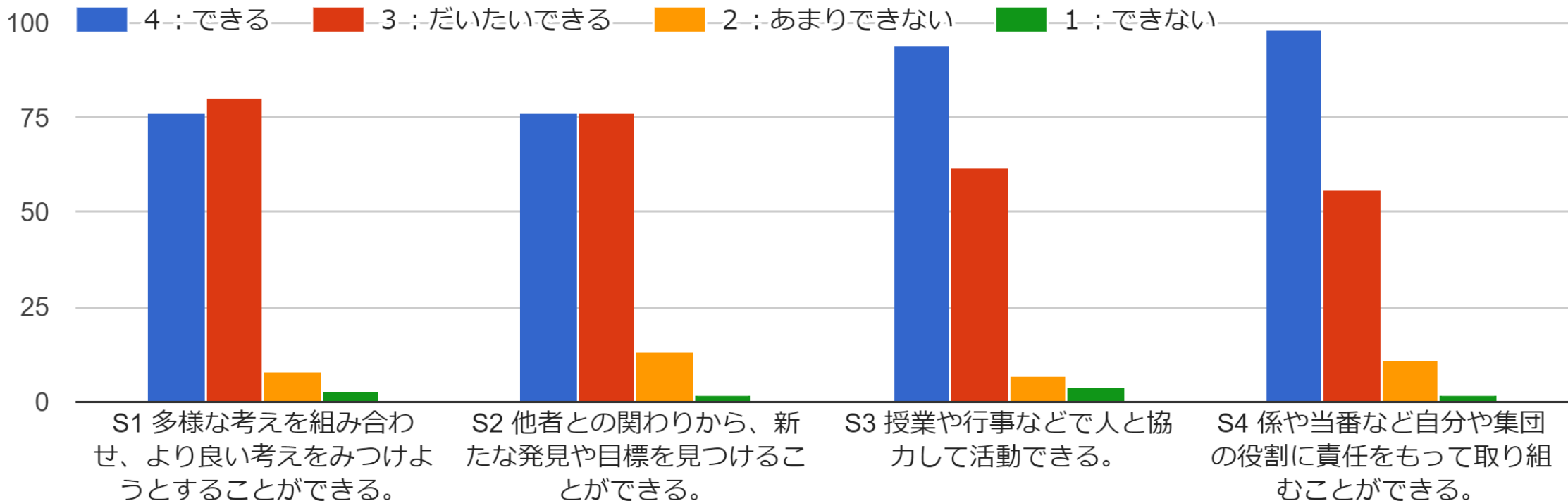
小中9年間の教育目標



# 【1-1】「4つの力×16Skill」の集積データについて

## I 協働力 (S1~4) 全校個数ベース (174レスポンス)

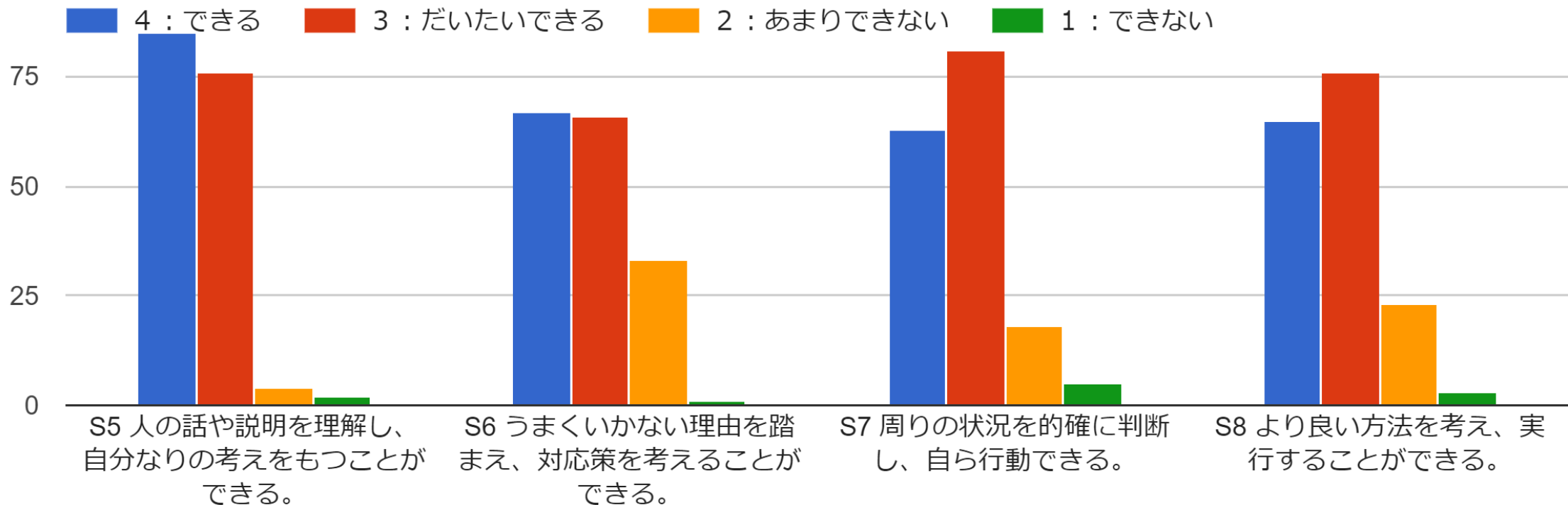
【1】協働力（つくる）について現在の自分を評価してみよう。



# 【1-2】「4つの力×16Skill」の集積データについて

## Ⅱ 対応力 (S5～8) 全校個数ベース (174レスポンス)

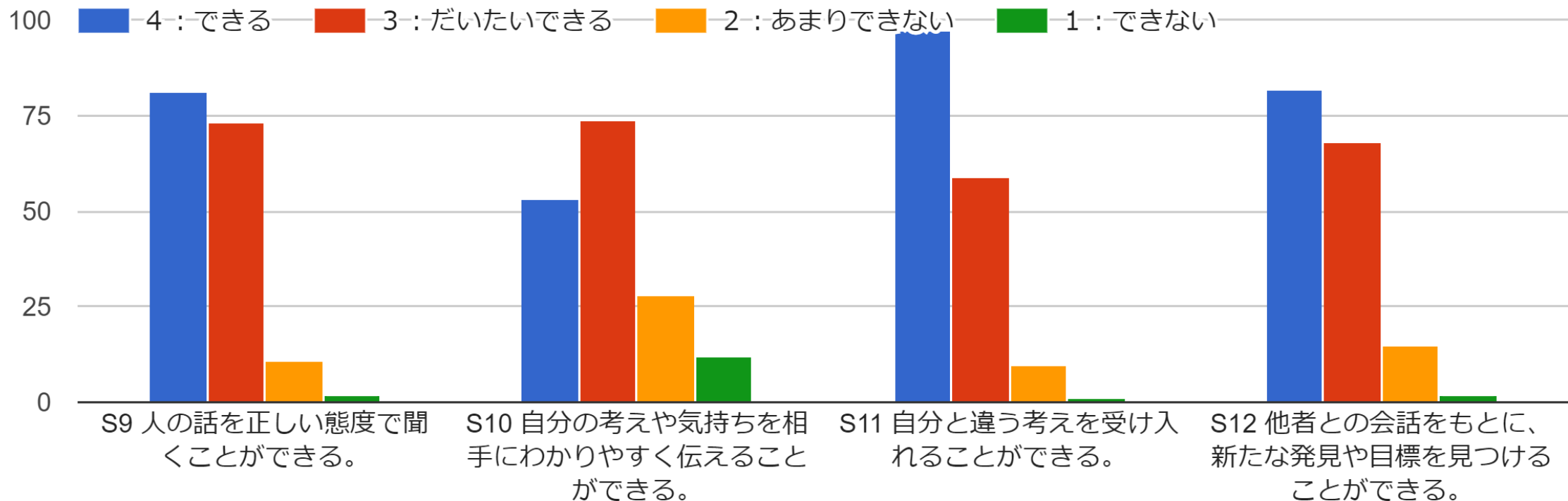
【2】 対応力 (うごく) について現在の自分を評価してみよう。



# 【1-3】「4つの力×16Skill」の集積データについて

## Ⅲ 対話力 (S9~12) 全校個数ベース (174レスポンス)

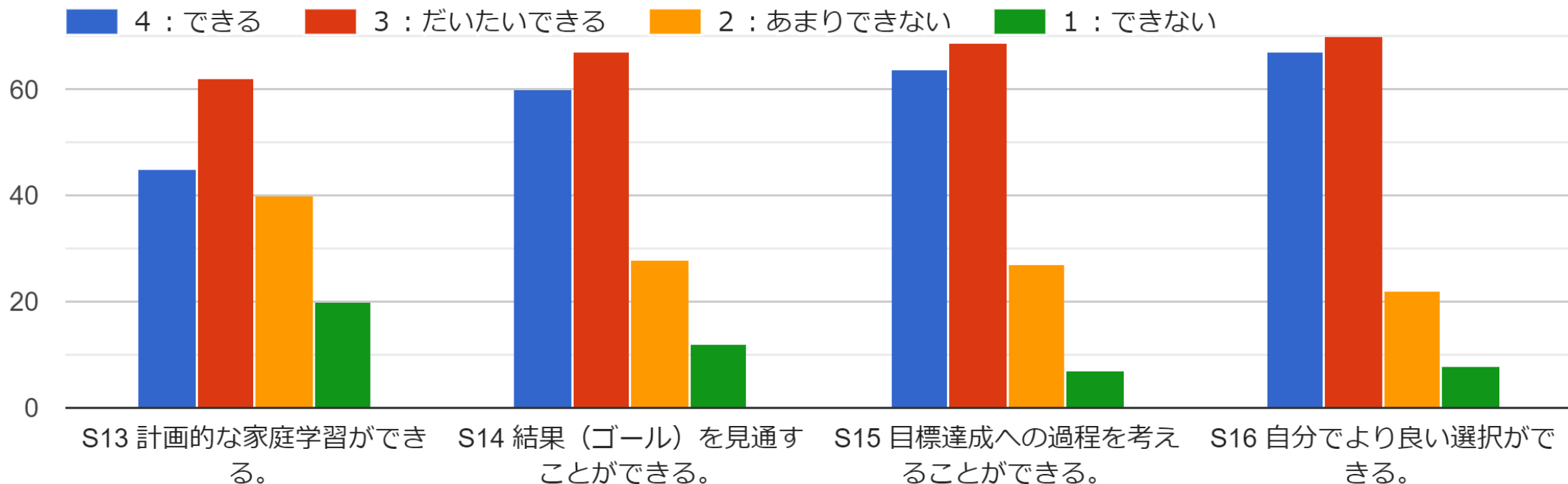
【3】対話力 (つたえる) について現在の自分を評価してみよう。



# 【1-2】「4つの力×16Skill」の集積データについて

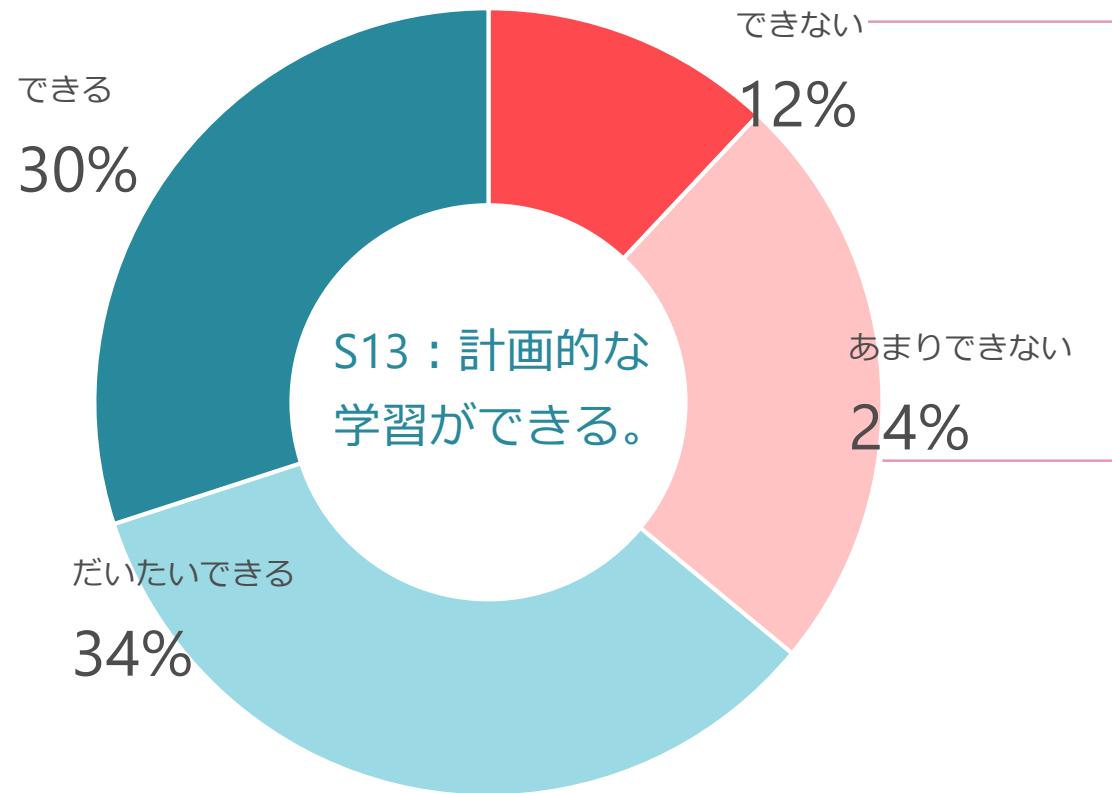
## IV 設計力 (S13~16) 全校個数ベース (174レスポンス)

【4】設計力 (みとおす) について現在の自分を評価してみよう。



## 【2-6】（経年課題） SKILL13の内訳

- こどもたちが主体的に学ぶことができるよう、授業改善、各種学習会参加の励行、テスト前学習計画、週末課題の継続など、その子の学習、生活環境に応じた声かけをしていきたい。
- 「あすのおと」、各種たよりを活用し、ゲームや動画視聴時間を抑え、学習する時間を生み出す工夫をしたい。



1学期を終えて…

本校全生徒の

**36%の子どもたちが**

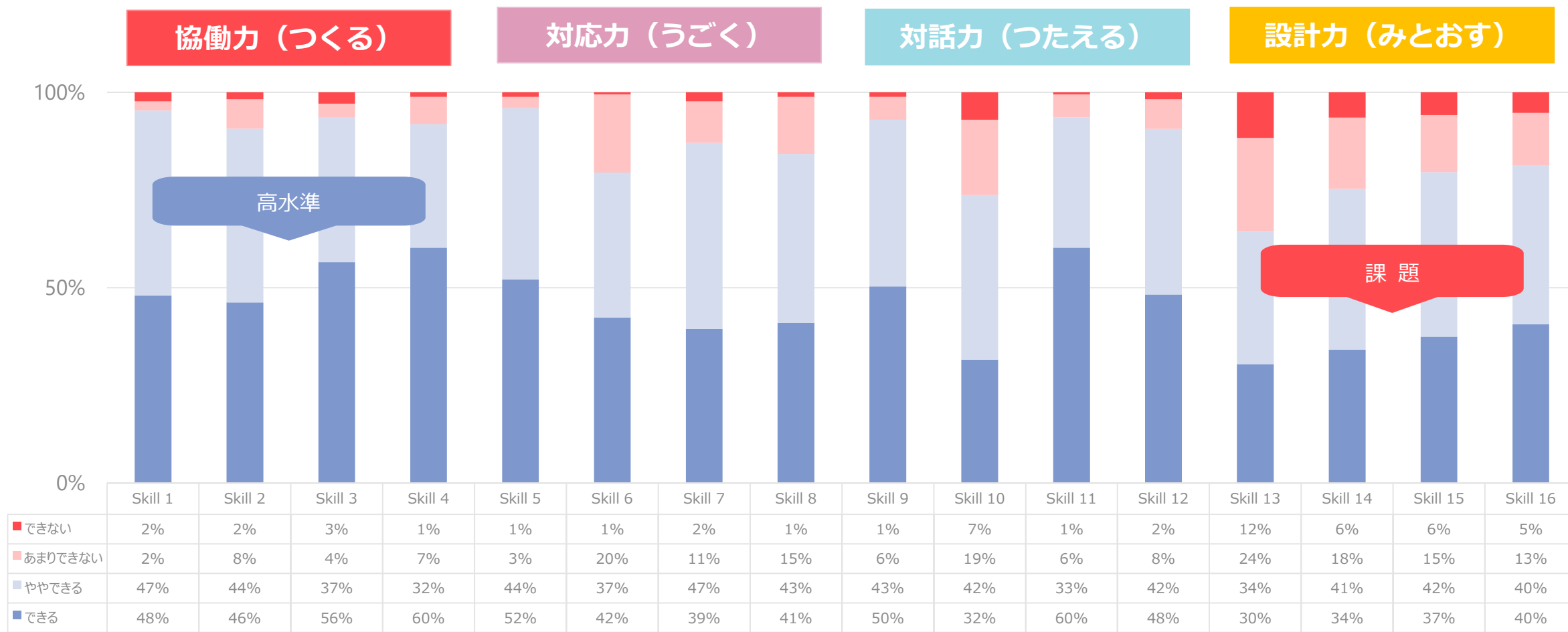
計画的に学習することに対し  
自信をもてていない。

**64%の子どもたちの**

チェック・改善・維持も必要。

## 【2-1】 全校マクロ分析 「4つの力×16SKILL」 (%ベース)

- 協働力, 対応力, 対話力の回答が**高水準**であり, 生活マナー, 共同作業, 他者への尊重が身についていると多くの生徒が自己認知している。
- 対話力 (S10 : 自己の伝達) , 設計力 (S13~15 : 計画的な学習, 見通し, 過程) が引き続き**本校の課題**とみられる。



## 【2-2】 「4つの力×16SKILL」 学年間比較 『協働力(S1~S4)』

- 協働力の項目に関して「S1:複合的な技能」「S2:新しい発見」「S3:仲間との協力」, 「S4:当番・係活動」の回答が総じて高水準であり、**チームでの取組で力を発揮する素養がある**と大半の生徒が自己認知している。
- どのスキルとも学年が高まるにつれ数値が高まり、**集団活動に関する入学後の習熟の深まり**を見とることができる。

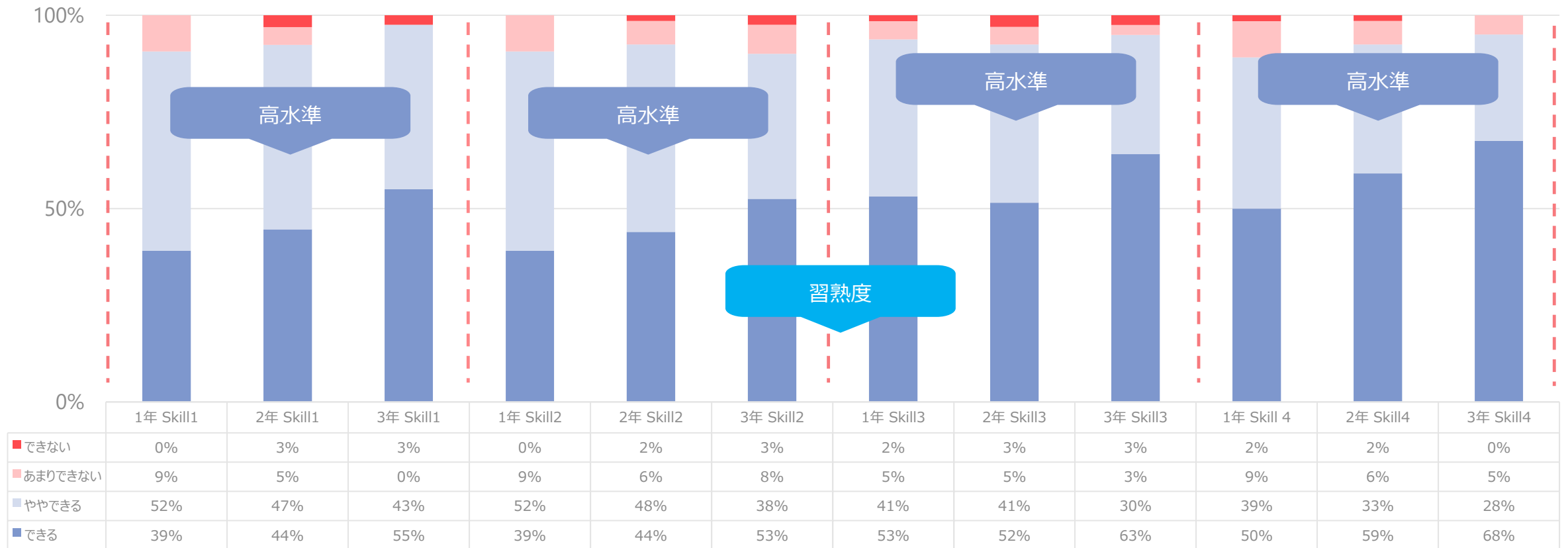


S1:多様な考えを組み合わせ、より良い考えを見つけようとする事ができる。

S2:他者との関わりから、新たな発見や目標を見つけることができる。

S3:授業や行事などで人と協力して活動できる。

S4:係や当番など自分や集団の役割に責任を持って取り組むことができる。





## 【2-3】 「4つの力×16SKILL」 学年間比較 『対応力(S5~S8)』

- 「S5：他者理解，自己判断」の回答が高水準であり，主体的・対話的な授業の効果と考えられる。
- S6～S8に関しては**苦手**に感じている生徒が一定数おり，「S6：振り返りと対応」「S7：状況の判断」に関しては**1，2年生**での**ネガティブな数値が少なくない**ので，項目を意識した粘り強く，長期的な力の育成が望まれる。

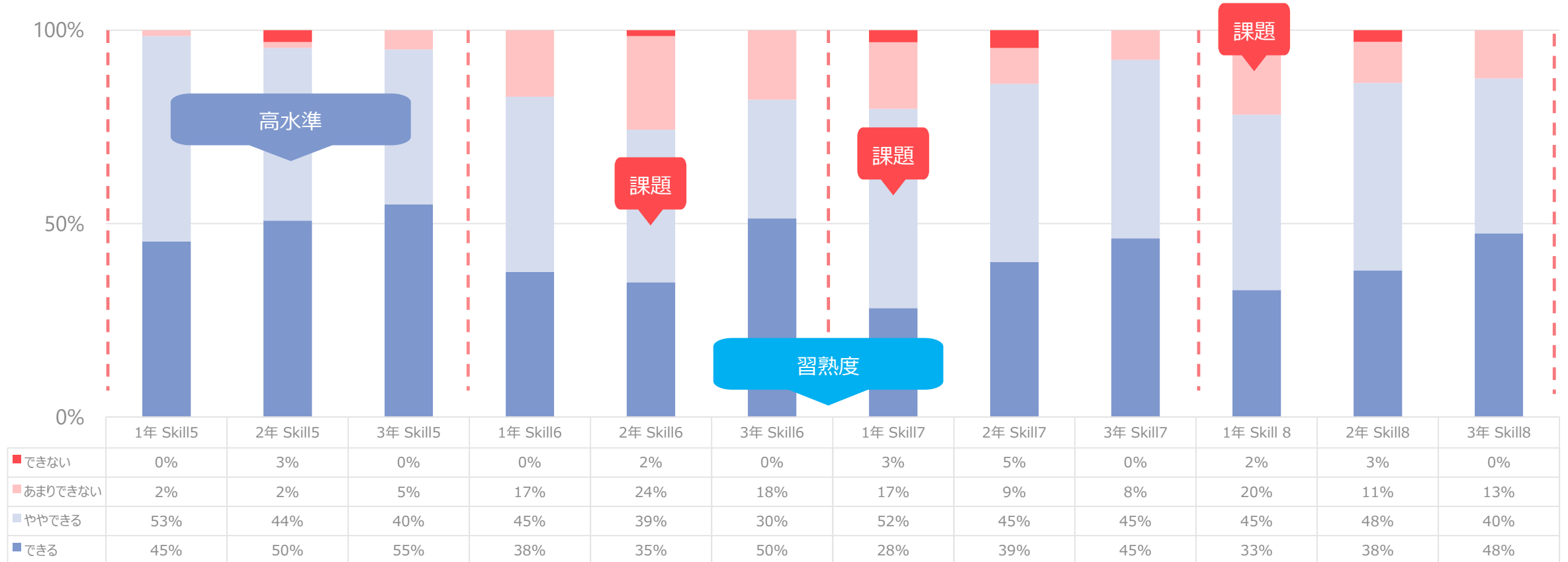


S5:人の話や説明を理解し，自分なりの考えをもつことができる。

S7：周りの状況を的確に判断し，自ら行動できる。

S6:うまくいかない理由を踏まえ，対応を考えることができる。

S8：より良い方法を考え，実行することができる。



## 【2-4】 「4つの力×16SKILL」 学年間比較 『対話力(S9~S12)』

- 対話力では「S11：多様な考えの受容」「S12：新たな発見」の数値が高く、**他者の意見を参考にしたり、柔軟な考えのこどもたちが育っている**と判断される。「S10：自己の伝達」に関して学年差がみられ、特に「できる」と自信を持っている階層が少ないので、「ややできる」を選択した層を含めての底上げが必要である。

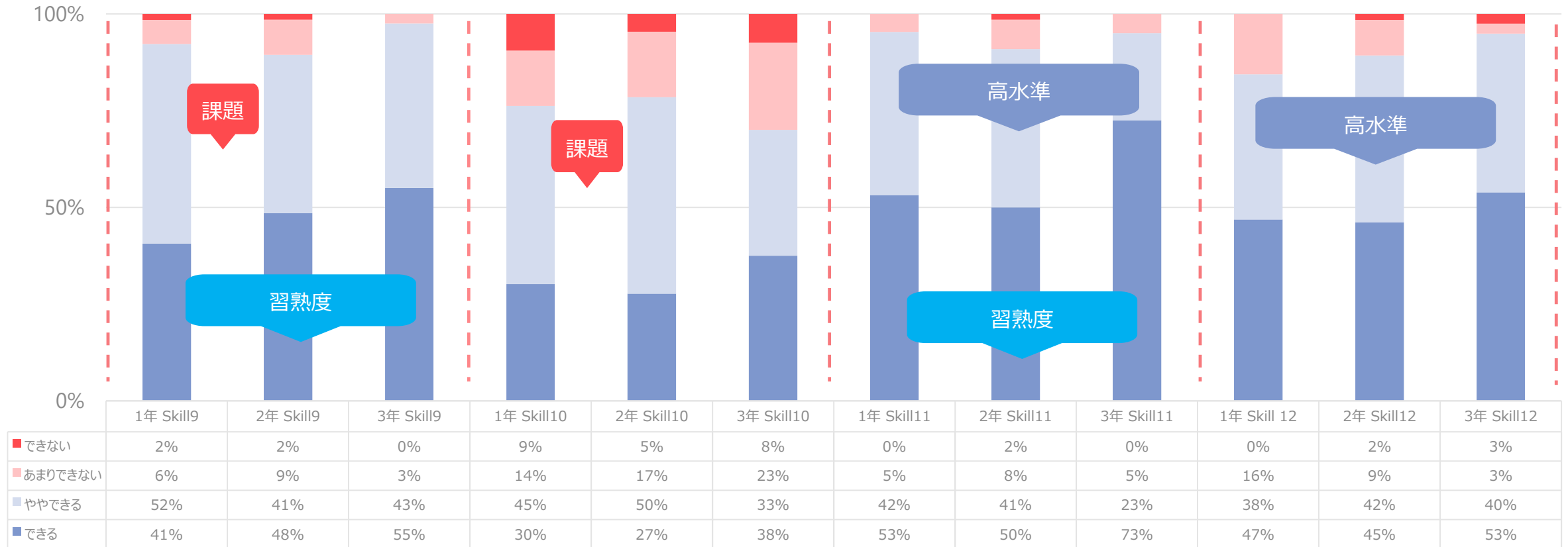


S9：人の話を正しい態度で聞くことができる。

S11：自分と違う考えを受け入れることができる。

S10：自分の考えや気持ちを相手にわかりやすく伝えることができる。

S12：他者との会話をもとに、新たな発見や目標を見つけることができる。



## 【2-5】 「4つの力×16のSKILL」 学年間比較 『設計力(S13~S16)』

- 設計力に関しては4つの力の中でも初歩的、基礎的な力と捉えてきたが、「S16：より良い選択」では学年が進み、様々な経験値により自信を深めている傾向が見られる。「S13：計画的な学習」については**本校の経年の課題であり、学年問わず課題と認識している生徒が多い**。集団・個人に応じて効果的な方策が必要である。

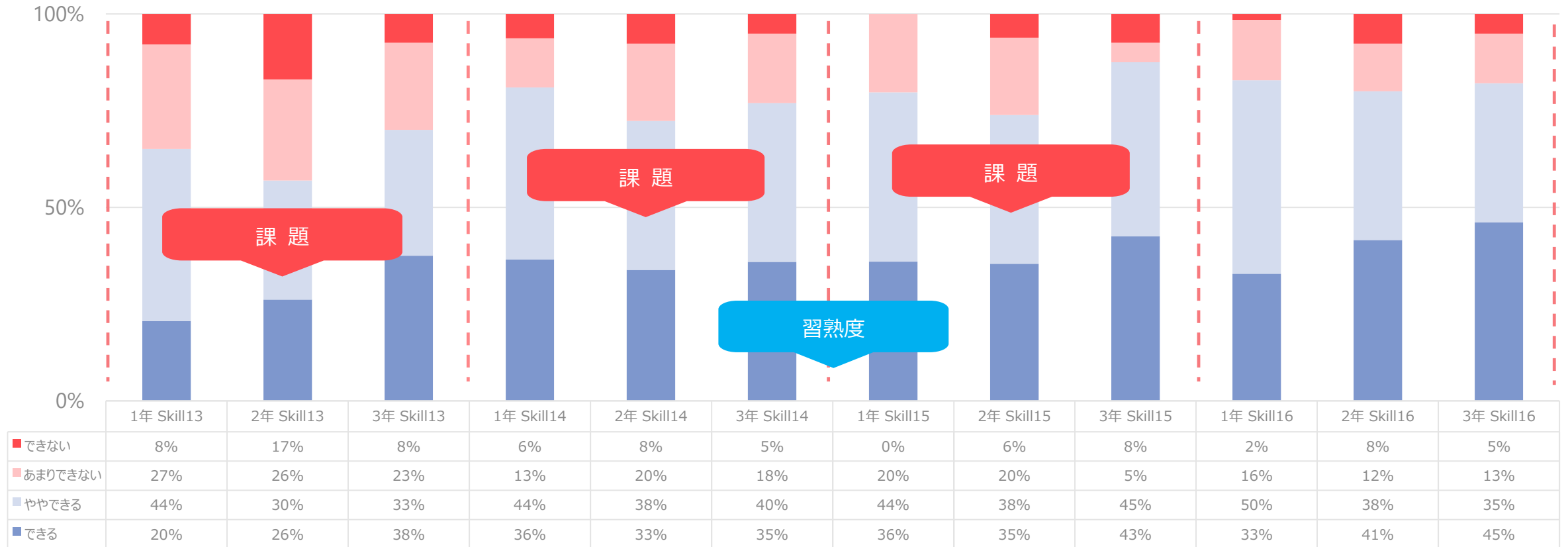


S13:計画的な家庭学習ができる。

S14：結果（ゴール）を見通すことができる。

S15:目標達成への過程を考えることができる。

S16：自分でより良い選択ができる。



### 【3-1】 「4つの力×16SKILL」に関する保護者意識【令和5年前期（7月実施）】

- 保護者の4つに力に関する質問の回答に関しても、生徒と同様の傾向がみられる。（設計力を課題をみている。）

(13)周りの人と協力しながら、学習や行事に対して努力する力が身についている。

(15) 自分の考えを發表し、周りの人と話し合いを進めていく力が身についている。

(14)自分のことを振り返り、生活や学習をより良くしていこうとする力が身についている。

(16)学習や生活、諸活動で目標を決め、計画をたてて、やり続ける力が身についている。

**(13)協働力（つくる）**

**(14)対応力（うごく）**

**(15)対話力（つたえる）**

**(16)設計力（みとおす）**

